

# 研修旅行雑感



商工会理事  
(補)さいとう 代表取締役  
**齋藤 一**



花見山公園



大内宿

出羽商工会役員研修  
福島県

花見山公園・滝桜・大内宿

この地をこよなく愛し、その絶景に驚嘆し、「桃源郷」という作品を発表した写真家秋山庄太郎のとらえた世界が視野に入ると、ハナモモ、サンシユク、サクラ、レンギョウ、モクレン、ボケ等々、全山種々の花木に覆われた壮大な景観はまさに「桃源郷」。

次々と駐車場にバスが到着するたび、満面の笑顔で迎えてくれる「ふくしま花案内人」の皆さんは、講習や研修を受けたボランティアとして活動されている方々だとか。花見山公園のルーツを伺うと、昭和初期頃より衰退し始めた養蚕業を見切り、山に生えている花木を売り出したところ、生け花などでのニーズを知り、雑木林を開墾し花木を植え続けた結果、花が咲き誇る山に変わり、その美しさは次第に人々の心を捉え始め、個人所有にもかかわらず公園として無料で開放しているところ。



「ふくしま花案内人」の方のガイド

年間二十数万入場料収入を計算するのは、下衆の勘繰りなのか、阿部一郎氏の公益精神に感服するばかりです。

「花見山公園」を「花咲く里山事業」の究極の姿として捉え、次代を担う子、孫に是非見て欲しい情景と強く感じたのは、私一人では無い筈です。

民間が、情熱を持ち頑張ると、行政も安穩とはしておれず、周辺の整備に力を傾注、遊歩道、公衆トイレ、駐車場の整備、花と緑の郵便局、花見山テント村等々の開設、互いにパートナーシップを発揮しよりよい地域を築く為の姿を垣間見ること

が出来ました。行政が音頭を取り、民間が追随するという従来型の地域活性化策は過去の遺物、互いに連携、協力し合うことが、より良い地域を築く、最も望まれる姿であると痛感しました。

民間の情熱と頑張りが、地域の為に不可欠であると、次に訪れた「大内宿」でも感じたことは、云うまでもありません。



手打ちそば処 茶屋 こめや  
講師 吉村 徳男氏



花見山公園にて